

世田谷区民のアナウンサー！

世田谷区議会議員

石川ナオミ

《ナオミチャンネル》

共生社会を
目指して

感動と勇気を与えてくれた東京2020大会。直接、競技会場に行けなくとも、多くの国民が日本人選手をはじめ、世界各国の選手の活躍をテレビやインターネット中継で観戦し、「勝ち負け」という結果に一喜一憂するだけではなく、チームとしての団結力やフェアプレー精神などを選手と一緒に体感したのではないのでしょうか。

東京2020大会を終えた今、世田谷区がレガシーとして後世に残していくものの一つにパラスポーツの更なる普及啓発があげられます。大会機運の盛り上がりを一過性で終わらせることなく、障がい者スポーツ等を通してより一層の共生社会の実現を求めていきたいと思っています。

さて、コロナ感染拡大については、予断許さない状況が続いています。「ワクチン接種したから大丈夫」と感染対策を緩めると、ワクチンの免疫をすり抜ける変異株が生じ、感染者数を増やしてしまうことも懸念されています。引き続き、区民の皆さまの命と健康、安心して暮らせる日々が守られますように私自身もしっかりと取り組んでまいります。

活動レポート「ナオミチャンネル」、今号はスペシャルインタビューをお届けします。季節の変わり目、何卒ご自愛くださいませ。

石川ナオミ

石川ナオミ
区政報告2021年 秋号
第012号こんな時、
どこに言えば
いいの？皆さまのお困りごとにも
すぐに対応させていただきます。

一部ご紹介します。

八幡山の緑道に小さな橋がかかっている箇所がありました。しかし、この細い橋を自転車で渡り曲がるには危険を伴います。実際に自転車で転倒し腕を骨折した区民の方もいて、多くの区民からも「何とかして欲しい」というご要望をいただきました。そこで、区の土木課に相談。橋の代わりに道を拡幅して安全性を高め、誰でも安心して通行できるよう生まれ変わりました。緑道にかかる橋は風情もありますが、ここは自転車で通行される方が多く、時代とともにニーズも変わってきています。骨折された区民の方からも「これで安心して通行できます」と喜んでいただいています。



このような声に対応させていただき各所で実現しました。スピーディーに行政につながります。

✉ info@naomi-ishikawa.com

編集後記

現在、私は都市整備常任委員会で委員長を拝命し、委員の皆さまと共に円滑な委員会運営になるようつとめさせていただいております。委員会では大量の紙の資料が用意されますが(写真※1)11月以降はタブレット対応になりペーパーレスの予定です。ペーパーレス化によりコスト削減、業務の効率化、環境保全を期待したいと思います。



※1



プロフィール

アナウンサー・NHKキャスターを経てフリーアナウンサーに。官公庁・民間企業・大学等で講師として多数登壇。キャリアカウンセラーとしても活動。2008年株式会社コミュニ（人材育成会社）を設立、代表取締役。2015年「女性の目線から、もっと住みやすい街にしたい」と一念発起し世田谷区議会議員選挙において、公募での自民党公認をいただき出馬。常に笑顔忘れず地道に謙虚に取り組むことをモットーに現在2期目。自民党区議団では唯一の女性議員として、また現在、会派の調整役でもある政調会長として務める。 成城消防団第3分団員。
《委員》都市整備常任委員会委員長、世田谷区消防団運営委員会、災害・防犯・オウム問題対策等特別委員会委員
《資格》国家資格キャリアコンサルタント、CDA（キャリアディベロプメントアドバイザー）、NLPトレーナー、中学・高等学校教員免許、その他

皆さまの声を
お聞かせください

石川ナオミ事務所

〒156-0056 東京都世田谷区八幡山 3-23-26
TEL & FAX : 03-5942-1285
Eメール : info@naomi-ishikawa.comf <https://www.facebook.com/naoishikawa>

石川ナオミ

検索



公式ホームページ

ホームページ : www.naomi-ishikawa.com

スペシャルインタビュー 001

桑島 俊彦

株式会社全国商店街支援センター代表取締役社長

新しい日常のなかで、
共にまちづくりをするために
商店街にできることが
まだまだあるはずです

コロナ禍のなか新しい日常ともいわれる今、地域コミュニティの担い手でもある商店街の果たす役割は、どのように変わってきたか。

烏山駅前通り商店街の取り組みを通して、世田谷区全域の商店街の未来とその在り方について、全国商店街支援センター代表取締役社長である、桑島俊彦氏にお話を伺いました。

危機をチャンスに変えた スタンプ事業

石川 日本で初めての試みを次々と行なって、商店街の活性化に尽力されてきたと聞いておりますが、具体的にどのような取り組みをされたのでしょうか。

桑島 烏山駅前通り商店街の青年部長から東京都商店街振興組合の理事長を務める現在まで商店街一筋でこれまでやってきたわけですが、まず取り組んだのがスタンプ事業です。大型スーパーの出店がきっかけでした。当時の商店街の店をすべて合せたようなスーパーは、非常に脅威だったのです。いわば黒船来航のような(笑)スーパーに太刀打ちするために始めたのが、ダイヤスタンプの導入。1965年のことです。全国の商店街の中でも初めての試みでしたね。

地域の人に買い物を続けてもらう

ために、貯めたスタンプで「買い物ができる」「預金ができる」「イベントに参加できる」など、付加価値を3倍くらい付けました。昭和40年から10年間は、シャトルバスを巡回させて、商店街に来てもらう工夫もしました。バス代はスタンプで任意で払うというものでした。商店街で買い物してもらうためにはどうすればいいか。地元のお客様とのつながりを深めるためにはどうすればいいか。心には心で返す。烏山駅前通り商店街は、スタンプで返すことにしたのです。



この成功によって、日本中の商店街が視察に訪れるようになりました。このスタンプシステムは「烏山方式」として確立され、私自身も全国を行脚して、このシステムをお伝えしました。

ダイヤスタンプは、すでに50年以上続いているのですが、全国に先駆けてICカードシステムを導入するなどして、今では第4次の段階になりました。さらにさまざまなサービスを追加して

います。そのひとつが、高齢者の見守り。カード利用のない期間がある程度続くと、商店街と世田谷区が安否確認を行う仕組みです。ほかにも買い物以外のコミュニティポイントとして、困りごとを相談することでもらえるポイント、清掃ボランティアに参加するともらえるポイントなどがあります。現在はキャッシュレスへの対応をすすめています。

まちづくりは、 人と人との関係づくりから

石川 まさに危機をチャンスに変えて、成功されたのがスタンプ事業ですね。地域住民を支えるという意味でも非常に意義のある事業だと思います。商店街の発展とともにまちも成長していくと思うのですが、まちづくりの観点から商店街の役割をどのようにお考えですか。

桑島 商店街の活性化は、地域と一体となったコミュニティづくりにおいて重要です。地域住民を支えるためにも商店街は元気でなくてはなりません。まちづくりの順番は、ハード、ソフト、ハードだと考えています。心と心で人

間関係を築き、次にソフトとして共同事業を行う。そして意識を高めたら、ハードの環境整備を行う。まずは人間関係をつくることから。遠い親戚より近くの他人ということです。

この関係づくりに大きな役割を果たしたのが、スタンプ事業でした。商店街が丸丸となって取り組んだ結果です。青年部長になってから今日に至るまで、とにかく多くの方のお力をお借りしたと思っています。積極的に協力してくれる方々の支えがあって今日があります。

住民ニーズをくみ取って、 地域の発展を共に支える

石川 コロナ禍ということもあり商店街の役割も変わってきているのではないかと思います。商店街の未来をどのように見据えていらっしゃいますでしょうか。

桑島 烏山の住民のみなさんは、とても意識が高く、街に落書きというものがありません。清掃活動を続けて19年になりますが、落書きを消したことはありません。それだけ街を愛する人が多いのだと思います。住民ニーズをくみ

石川ナオミ

世田谷区議会議員

地域コミュニティを支える担い手として、
商店街のさらなる活躍を期待しています

上げるものの商店街の役目です。

ある時、歩道に段差があって歩きにくいという声が上がりました。歩道の幅を広げ、さらに熱くなりすぎる

ので遮熱材を使って改修したいという要請を住民ニーズとして行政に訴え、歩道の整備を実現させました。

京王線の連続立体交差事業もそのひとつです。開かずの踏切問題は、住民にとって切実です。これも粘り強く陳情を繰り返すことで、実現しました。地域コミュニティの一員として、商店街が地域住民のニーズに応える機能をもつことが、これから重要になるのではないのでしょうか。商店街が公共的な役割をもつことで存在意義を高めていくことができると思います。



商店街には、安全・安心・環境・子育て・食育・高齢者の相談相手・文化の伝承創造など、さまざまな役割があります。新しい日常のなかで、住民のみなさんに寄り添い、共にまちづくり



をするために商店街にできることがまだまだあるはずです。議論を重ね、それをボトムアップしていくことで、まちづくりに貢献していきたいですね。石川 地域コミュニティを支える担い手として、商店街のさらなる活躍に期待しています。本日はありがとうございました。



桑島 俊彦

(くわじまとしひこ)

1941年生まれ。株式会社全国商店街支援センター代表取締役社長。全国商店街振興組合連合会理事・最高顧問、東京都商店街振興組合連合会理事長など要職を歴任。烏山駅前通り商店街で化粧品店を営む。'09より現職。

最高顧問、東京都商店街振興組合連合会理事長など要職を歴任。烏山駅前通り商店街で化粧品店を営む。'09より現職。

